

キリスト者障害者通信

き ぼ う

No.80
2022.12.1

特定非営利活動法人兵庫共励会
〒672-8045 姫路市師磨区中野田四一二六三八
FAX 〇七九一二三五八八一九
振替 〇七九一二三五八一〇一六
〇七九一二三五八一〇一六
印刷所 新 生 会 作 業 所
発行所 廣 田 守 男

励まし合って進もう



浅野直美 牧師

日本基督教団 兵庫教区伝道部
各種伝道委員会

委員長 浅野直美

共励会創立五十年おめでとうございます。
聖書から「励まし合う」という勧めを聞き
ましょう。ヘブライ人への手紙十章十九〜二
五節。

十九〜二十節。「それで兄弟たち、わたし
たちは、イエスの血によって聖所に入れると
確信しています。イエスは垂れ幕、つまり、
ご自分の肉を通して、新しい生きた道をわた
したちのために開いてくださったのです。」

ここには、キリストの尊い十字架の贖いに
よって、その血と肉によって、新しい生きた
道が開かれていることが宣言されています。
それはキリストの十字架によって誰もが自由

に神の前で礼拝できる、ということです。障
がいがあってもなくても、どんな状態の人も
誰もが自由に神の前で礼拝できるように、歩
むべき新しい道がイエス様の十字架によって
開かれています。バリアーのある教会ではな
く、全くバリアフリーに、誰もが神の前で礼
拝できる、そしてこの世を神の前に生かされ
て歩むのです。

わたしの曾祖父は、子どもの時に家にあつ
た鉄砲を触っていてそれが暴発し、目に大け
がを負いました。子どものころは、まだ見え
ていたでしょう、三里の道を歩いて教会に
通ったと聞いています。障がいゆえに信仰の

目を開かれたといってもよいでしょう。同志
社で学び、視力障がいがありながら妻の助け
を得て牧師をし、ほとんど視力はなかったと
思いますが周りの人の理解を得て、近江八幡
で近江兄弟社の仕事をしていたそうです。

わたしが曾祖父に会ったときは、彼はもう
寝たきりの老人でした。まだ幼かったころの
思い出が鮮明に残っています。曾祖父は日当
たりのよい部屋のベッドに静かに寝ていまし
た。目が見えないので、声を出して挨拶しな
ければいけません。でも、わたしは、目が見
えないで寝たきりで自分で動けない人を見て、
何も言えませんでした。とても恥ずかしがり
だったこともありましたが、なんとやってよい
かわからなかったのです。何も言わないので、
母が「直美が来ましたよ」と声をかけてくれ
ました。すると曾祖父は「おおそうか」と嬉
しそうに手を伸ばし、握手しようとしてくれ
ました。母に促されてその手に触れました。
暖かくて大きな手でした。嬉しそうに曾祖父
は最初のひ孫であった「私」を喜んでくれま
した。

そのとき、わたしはとても幸せでした。曾
祖父は、ひ孫のわたしの存在を喜んでくれま
した。声をだして挨拶できないわたしをとが
めることなく、ただ、わたしが生きているこ
とを喜んでくれていました。何か話をしたわ
けでもなく、ただ握手した、それだけです。

実にわたしはそのとき、キリスト教はいいなあと思ったのです。曾祖父の周りの空気の穏やかさ、暖かさ、安心、平和がありました。「そのままでいい」曾祖父はわたしの心に残った最初の信仰者の姿です。目が見えなくて、動けなくて辛いはずなのに、と子ども心に実に不思議な出会いでした。

今、考えてみますと、曾祖父はもう動けなくて教会に行けないけれども、ベッドの上で自由に、神に礼拝を捧げていたのだと思います。人間の側がどんな状態であつても、ただ恵みによって、十字架の恵みによって生かされることの幸いを思います。今、神の前はバリアフリーなのです。

二二節。「信頼しきつて、真心から神に近づこうではありませんか。」

わたしたちに大切なことは、生ける神を信頼しきることではないでしょうか。曾祖父はキリスト教の事を何も言いませんでしたが、わたしにキリスト教信仰に生きる姿を伝えてくれました。まだ幼児だった、ひ孫のわたしに、です。この経験は信仰の原点の一つになっています。神の前にバリアフリーでわたしたちは礼拝できる、キリストの十字架によつて。新しい生きた道が与えられたのです。なんと嬉しいことでしょうか。

二三節。「約束してくださったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺る

がぬようしっかりと保ちましょう。」

共励会はNPO法人になってキリスト教の文字がなくなりました。けれども、この世に埋没してしまわないために、再臨の希望をしっかりと保つことが大切です。

二四〜二五節。「互いに愛と善行に励むように心がけ、ある人たちの習慣に倣つて集會を怠つたりせず、むしろ励まし合ひましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。」

ここには励まし合うという言葉が繰り返されています。共励会の歴史は、どんなにづらい経験があつても、互いに愛と善行に励むように心がけていた方たちの、励まし合つてきた歩みの積み重ねなのです。

わたしも一泊修養会参加の経験があります。皆さんの証詞や同室の方たちとの話がとてもよくて、信仰者だからこそ語り合えること、聞ける話、証詞、素直に喜べる時でした。励まし合える関係、この世の中にそのような場はそうありません。

共に励まし合つて進むとき、神の御心ならば、道が開かれていきます。創立当初のことを思い出しましょう。三島実郎牧師と山口千代子牧師の心に神が思いを起こさせてくださり、兼清章牧師を神が相生教会にお遣わしになりました。共励会の誕生は、すべて神の業

です。この神のご計画を実現するために何人もの地上の人間が動かされ、共励会の歩みが続いています。

わたしたちは、一日、一日、確実に「かの日」に近づいています。その中で、神のご計画がこれからも共励会に実現されますように。ますます励まし合つて進みましょう。



共励会 50 年記念感謝礼拝

兵庫共励会ニュース

拡大懇談会

2022年9月29日(木) 13:30~16:00

会 場 明石市生涯学習センター703号室
参加者数 17名

高野國昭理事から、

①50年のあゆみを振り返り、②現在の状況と課題、③これから歩むべき方向性、④新たな具体的な取り組みの私案の発題があり、皆さまからの意見を聞きました。

会員の岩村義雄先生や、椿本博久先生も参加され、これからの共励会について考えることができました。皆さまのご意見を理事会で検討して、具体的な計画を立案して行く事になりました。

50周年記念集会

2022年10月11日(火) 10:30~15:00

会 場 日本キリスト教団 神戸聖愛教会
参加者数 23名第1部 50周年記念感謝礼拝
説教

日本キリスト教団 芦屋三条教会

牧師 浅野直美

(内容は、今号の巻頭言に記載しています)

第2部 愛餐会

食事をしながら、自己紹介をしました。

第3部 50周年記念座談会

穂積修司牧師の司会のもと50年の歩みを振り返り、これからの歩みについて懇談しました。

(この内容は50年記念誌に記載する予定です。)

シオンビルの贈与を受けました。

兵庫共励会の元理事であられた、古澤輝勝さんが、2022年6月17日に召天され、生前に作成された遺言書の通り、鉄筋3階建ての「シオンビル」の贈与を受けました。

シオンビルは現在、店舗として貸していますので、当面は現状のまま使用してゆきます。



シオンビル



共励会 50 年記念集会集合写真

古澤輝勝さんを偲んで

日本キリスト教団 神戸栄光教会

信徒 高野 國 昭



古澤輝勝さんとの出会いは、ご夫妻が明石人丸教会から、わたしが所属している教会に転会してこられた時でした。

教会では、社会委員会に所属され、問題意識をもって、積極的に活動に参加されていきました。私も社会委員会に所属していただきました。で、親しく交わりをさせていただきました。

私が兵庫共励会と係りを持つきっかけとなったのは、古澤さんから、「自分は高齢になつて活動が出来なくなつてきたので是非引き継いで欲しい」との声掛けがあつたからです。

古澤さんは、亡くなられた息子さんの事もあつて、兵庫共励会の活動を長年にわたつて積極的に活動をされていたことを後で知りました。

古澤さんは共励会の活動の他、御自分の住んでおられた、明石市魚住の地域で、キリスト教の伝道を積極的にされていました。駅前でご自分が作成された印刷物を配布されていたとも聞いています。シオンビルで榎本保郎

先生のテープを用いて、聖書の集いを長年されていました。

お体もご不自由になられておられましたが、本当にバイタリテイに行動される方でした。

後に知つたのですが、若いころには柔道で体を鍛えられて、警察官になられました。老人の施設を造りたいとのビジョンを持たれて、その資金を造る為に不動産屋の経営に転身されたとの事です。

老人施設の設立はできませんでしたが、遺言書を作成され、所有されている財産を、私たちの法人や、教会に全てを贈与されました。

古澤さんは、息子さんと奥様を先に天国に送り、不自由なお体で一人暮らしをご自宅で行っていました。コロナ禍もあつてなかなか、訪問する機会はなかつたのですが、白井 進先生とお訪ねしたことがありました。電動の車いすです。迎えに来ていただきました。ご自宅の塀には、キリスト教の印刷物が貼られ、道を通行する人が読み、キリスト教の伝道へ役立てようとされている熱心さを感じました。

その時には、シオンビルでのキリスト教の集いもやむなく出来なくなつてしまっていましたので、残念がつておられました。

古澤さんから、生前に多額の献金を兵庫共励会に頂きましたが、遺言により、鉄筋3階建てのシオンビルの贈与もして頂きました。

古澤さんの意思を汲んで、兵庫共励会がどの

ようにして活用していくかを、神様のみ旨を求めて祈つてゆきましょう。

「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。」

テモテへの手紙 Ⅱ 4章7節

2022年11月18日の永眠者記念礼拝時に、神戸栄光教会の墓地に埋骨されました。

わたしも、古澤さんにならつて、与えられた生涯を主に仕えて全うしたいと思います。

古澤さん、ありがとうございました。天国で再会しましょう。

編集後記

今号では、50周年記念礼拝で説教を下さつた、浅野直美牧師から巻頭言の原稿を頂きました。

互いに励まし合い、助け合つて今迄の活動をやる事無く継続し、神様に祈り求めて神様のご計画を進めて行きましょう。

今年のクリスマスも祝福された時となりますように祈ります。